

次期基本構想の骨子(案)

参考資料1

1 性格・計画期間・特徴

〈性 格〉 県政の総合的な推進のための指針、各分野の部門別計画、ビジョンの基本となるもの。県民と理念を共有し、その実現に向けて、ともに取組を進めていくための将来ビジョン

〈計画期間〉 2019年度～2030年度(12年間)

2 2030年の展望

(1)世界・日本の潮流

- 【全体】○SDGs(持続可能な開発目標)の国連での採択。
 【人】○世界的な人口増の一方で日本は人口減少社会。
 ○日本は超高齢社会に突入。「人生100年時代」。
 【社会】○世界的な人材交流拡大。多様な人々の理解が重要。
 ○大規模災害の発生可能性が高まる。
 【経済】○第4次産業革命の進展(IoT, AI)
 ○世界経済の中心が欧米からアジアへシフト。
 ○世界的な高度人材の獲得競争。
 【環境】○温暖化による気候変動の影響、パリ協定の発効。
 ○生態系と生物多様性の劣化。

(2)滋賀の特徴

- 【人】○若年者比率が比較的高いが、地域差が大きい。
 ○人口の流出・流入が多い。
 ○平均寿命が長い。
 ○先人の知恵が生きる風土。ボランティア活動等が活発。
 【社会】○適度に都市生活が送れる豊かで良好な住環境。
 ○伝統的な地域コミュニティの結びつき。
 ○高速鉄道網や高速道路網の整備による地理的優位性。
 【経済】○第二次産業の比率が高い。
 ○大規模事業所、研究所、マザー工場、大学等の知的集積。
 ○中小企業・小規模事業者が99.8%を占める。
 ○特色ある米づくり(環境こだわり農業取組面積日本一)。
 【環境】○琵琶湖を中心に流域がまとまった世界。
 ○琵琶湖の恩恵を受ける一方、直面する課題は複雑化。
 ○多様な主体との連携による森、川、里、湖の保全の取組。
 ○県民や事業者の琵琶湖や自然環境を大切にす意識。

(3)2030年 滋賀のリスク

- 【人】○人口減(推計137万人 2015比▲2.9%)。
 ○県内の半数の市町で高齢化率3割超。
 ○変化の大きい時代への適応の不安。
 ○人生100年時代の生き方への不安。
 【社会】○コミュニティ弱体化による共助低下。
 ○社会を支える様々な人材の不足。
 ○社会インフラの老朽化。
 ○南海トラフ地震等、大規模災害の発生。
 ○近隣での高速道路、鉄道網整備の影響。
 【経済】○内需縮小による産業への影響。
 ○国内外への人材流出、後継者不足。
 ○第4次産業革命への対応を誤った場合の競争力低下。
 【環境】○琵琶湖や流域での生態系のバランスの変化。
 ○森・川・里(農山村)・湖の有する多面的機能の低下。
 ○気候変動に関連する影響の深刻化。

3 基本理念と目指す2030年の姿

基本理念:

人生100年時代 滋賀で幸せに生きる
 ~ つくる そだてる わかちあう ~



4 政策の基本的な方向性

目指す姿の実現のために必要な政策

- ①未来への希望に満ちた健やかな生き方
 (1)生涯を通じた「健康」の追求
 ・「からだ」の健康づくり
 ・「こころ」の健康づくり
 ・幸せな最期のために
 (2)柔軟なライフコースの実現
 ・たくましく柔軟に生きるための学校教育の推進
 ・生涯を通じた学ぶ機会の提供
 ・子どもを育て、子どもが育ちやすい環境づくり
 ・柔軟な働き方の実現
 ・誰もが複数の役割を持てる社会づくり
 ②未来を拓く 高い価値を生み出す産業
 ・ICT, IoT, AI等による産業の高度化
 ・成長市場・分野を意識した産業創出・転換
 ・産業の魅力向上による事業承継、担い手確保・育成
 ③未来を支える 多様な社会基盤
 ・効率的で強靱な社会インフラの整備、更新、維持管理
 ・第4次産業革命を支える情報基盤の整備
 ・人と人、人と地域のつながりづくり
 ・安全安心の基盤づくり
 ・多様性を認め合う共生社会の実現
 ④未来につなげる 豊かな自然の恵み
 ・琵琶湖や自然の恵みの保全再生・活用
 ・地球規模の視点を持った環境問題への対応
 ・将来の環境を支える人づくり

5 政策の推進方策

- 全体評価
 目指す姿①～④を代表する指標を設定。全体の到達状況の評価
 ●政策の推進
 4年間×3期に分けて政策レベルの実施計画。
 ●部門別計画とのすみわけ
 具体的な施策・事業は、部門別計画に委任。
 ●SDGsの視点を活用した施策の検討
 事業実施に当たり、SDGsの視点を活用することを明記。